

二〇一八年度

沖縄大学 一般入試（前期）

# 「国語」（解答例）

・法経学部 法経学科

・人文学部 国際コミュニケーション学科

福祉文化学科

こども文化学科

国語 解答用紙

氏名

受験番号

**解 答**

問一

① 困 難 こんなん	② お お す じ 大筋	③ 支 配 しはい	④ 凝 固 ぎょうこ
⑤ 基 礎 きそ	⑥ 経 路 けいろ	⑦ 閉 ざ し (と)ざし	⑧ 意 識 いしき
⑨ 記 憶 きおく	⑩ 虚 心 坦 懐 きよしんたんかい	⑪ 蓄 積 ちくせき	⑫ 便 宜 的 べんぎてき
⑬ 密 接 みつせつ	⑭ 柔 軟 じゅうなん		

問二

A 一 方	B た と え ば	C け れ ど も
D も つ と も	E つ ま り	F で す か ら

問三

エ

問四

東洋医学などのように、過去の経験に基づく治療法が有効な場合もあるが、それにとらわれすぎると、より根拠のある新しい治療法を排除してしまう危険があるということである。

(八十一字)

問五

人間の経験の内部には、過去に向かって凝固してしまふ形と、未来に向かって絶えず開いていく形というような分極性があると考えているからである。

(六十八字)

問六

迷信とは、過去にあったあることが有効だったという理由で、みんながそれを信じて、がんばってまもるといふものであるが、このことは経験の過去化や凝固を意味する体験そのものであるということである。

(九十四字)

問七

様々なことを経験すると、その経験が生きてくるときがある。そんなとき、経験していいよかったなと思う。しかし、その経験が凝固し、新しい状況やそこにおける問題の解決において、固定的な見方をしてしまわないとも限らない。そのように考えると、筆者のように、経験と体験を区別し、経験が凝固して体験にならないように、また体験を経験化させ、未来の可能性に目を閉じないようにしていくことが大切だと考える。

(百九十二字)

・表記、字数(適切であるか)

・内容(文章で表現されている「経験」と「体験」について、よく読んで、自分の問題として考えているかどうか)